

全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査

分担研究者 尾崎 茂 国立精神・神経センター精神保健研究所, 薬物依存研究部室長
研究協力者 和田 清 国立精神・神経センター精神保健研究所, 薬物依存研究部長
大槻直美 国立精神・神経センター精神保健研究所, 薬物依存研究部研究助手

研究要旨 1987 年度以降施行されてきた「薬物関連精神疾患の実態調査」について、主に共通した調査項目に注目して経時的分析を行った。各年度の調査において回答率は概ね 50%を超え、病床数からも同程度にカバーしており、全数調査として意義のある調査が施行されていると考えられた。覚せい剤と有機溶剤が精神科医療の現場においても主たる乱用薬物であり、覚せい剤は主たる使用薬物としては 50～60%と最も高い割合を示し、漸増傾向にあるとともに、使用歴を有する薬物としても最も高い割合を示した。有機溶剤は、主たる使用薬物としては 20%前後と減少傾向にあるが、初回使用薬物としては 40～50%と覚せい剤よりも最も高い割合を示した。若年層における薬物乱用への gateway としての有機溶剤の役割は今なお重要であり、予防啓発・早期介入に関する対策の一層の充実が必要と考えられた。大麻は、主たる使用薬物としては 1～2%を占めるに過ぎないが、使用歴を有する薬物としては 20%を超えるなど、最近の調査において著明な増加を示しており、一般社会での乱用の拡大を反映していると考えられた。各薬物症例群において、使用期間が 1 年未満の「初期乱用者」の割合は 5%前後で、顕著な変化はみられず概ね横ばいであったが、覚せい剤症例ではやや減少傾向がみられた。「長期乱用群（薬物使用開始後 5 年以上経過）」は 40～80%を占め、覚せい剤、有機溶剤ではやや増加傾向がみられた。本調査を継続することは、精神医療の現場における薬物関連問題の実態把握とともに、予防啓発および精神保健上の対策を検討する際の重要な情報提供をもたらすと考えられた。

A. 研究目的

本調査研究は、全国のすべての有床精神科医療施設における薬物関連精神疾患患者を対象とし、薬物乱用・依存に関する多面的疫学研究のひとつとして継続的に行われてきたもので、1987 年以来ほぼ隔年で実施され、2002 年までに 9 回の調査を重ねてきた^{1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9)}。

今年度は調査の実施しない年度にあたるため、すでに開始後約 15 年を経過した本調査研究の結果から、精神医療の現場における薬物関連精神疾患の特徴について、その全体的傾向を

経時的に検討することを目的とした。また、これまでのデータを関係者のみならず一般社会により幅広く還元するために、過去の報告書を電子化して、インターネット等における閲覧を可能にする準備を行った。これによって本調査研究データへのアクセスが容易になり、国民の間で広く情報を共有することができるとともに、調査研究活動の一般社会への還元を促進すると考えられる。

B. 研究方法

本調査の対象，方法は下記のようなものである。

- ・ 調査対象医療施設：全国の精神科病床を有する全医療機関。
- ・ 調査期間：2ヶ月間（9月～10月）。
- ・ 調査対象患者：調査期間内に外来または入院で診療を受けた，アルコールを除く精神作用物質を主な使用薬物とする薬物関連精神疾患患者。
- ・ 調査方法：質問用紙を郵送し，担当医により記載。

調査項目については，調査年度によって質問項目の設定に多少の異同があるため，調査結果の経時的分析については，各年度の調査において共通の調査項目を中心として次のような点について検討を行った。

- ① 回答状況の推移
- ② 使用薬物別にみた症例(%)の推移
- ③ 性・年齢の分布
- ④ 薬物使用開始年齢
- ⑤ 薬物使用期間
- ⑥ 喫煙・飲酒状況
- ⑦ 薬物初回使用の動機
- ⑧ 薬物初回使用の契機となった人物
- ⑨ 薬物の主な入手経路
- ⑩ 覚せい剤初回使用方法
- ⑪ 主な状態像

また，上記のような共通項目のほか，年度ごとに下記のような関心領域を設定して調査を施行してきた。

1987 ¹⁾	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乱用継続の理由 ・ 乱用による社会的障害度，問題行動
1989 ²⁾	<ul style="list-style-type: none"> ・ 性格特性（Y-G12項目） ・ 扶養者の特性（養育態度，職歴，逮捕・矯正歴，薬物使用歴）

1991 ³⁾	<ul style="list-style-type: none"> ・ 覚せい剤，有機溶剤による症状遷延・再燃例と乱用期間 ・ 転帰
1993 ⁴⁾	<ul style="list-style-type: none"> ・ 覚せい剤および有機溶剤による後遺症候群 ・ 来院時・治療中の主症状 ・ 治療終了時・調査時の状態改善度
1994 ⁵⁾	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来院時・治療中の主症状 ・ 最終診断時・調査時の状態
1996 ⁶⁾	<ul style="list-style-type: none"> ・ 覚せい剤関連精神障害の診断（厚生省「専門家会議（1985）」による類型分類）
1998 ⁷⁾	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICD-10による診断分類 ・ 精神病性障害の頻度と発症年齢
2000 ⁸⁾	<ul style="list-style-type: none"> ・ 覚せい剤精神病の持続期間（付：ICD-10診断分類のアルコールリズム）
2002 ⁹⁾	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神病性障害の診断（6ヶ月以上にわたり症状の持続する長期持続例を含む） ・ 依存症候群の診断（ICD-10，乱用～依存までの期間，SDS（Severity of Dependence Scale）を用いた自記式評価尺度） ・ 先行・併存する精神医学的障害，生活史的問題（摂食障害，気分障害，発達障害，虐待の既往など） ・ 利用された治療プログラム

これらの詳細については，各年度の報告書を参照されたい。

C. 結果

（1）回答状況の推移（表1）

調査年度別の回答状況をみると，回答率は概ね50%前後で，全調査を通しての平均は49.3%であった。このうち「該当症例あり」と回答した施設は平均267施設と全体の約1/6に過ぎず，「該当症例なし」と回答した施設は，回答した

施設全体の2/3を占めていた。

報告された症例数は全体で平均 900 例を超え、1 施設あたりでは平均 3.5 例であった。最近の調査では、「症例あり」施設数が減少する一方で、「該当症例なし」施設数、また一施設あたりの回答症例数はやや増加傾向にある。

なお、2002 年度調査⁹⁾で回答の得られた施設の精神科病床総数は 189,341 床で、全国の精神病床の 53%を占めていた。

(2) 施設種別にみた回答状況 (表 2)

回答された症例数は、民間病院が全体の 60%前後、国立病院、自治体立病院がそれぞれ 15～20%を占めている。この中で、自治体立病院から報告された症例の割合が増加傾向にある。施設種別ごとの回答率は 50～70%前後と概ね高い割合がみられている。該当する症例のあった施設の割合は国立病院、自治体立病院で 50～60%と比較的高かった。2002 年度の調査⁹⁾では、施設あたりの報告症例数は国立病院が 10.8 例と最も高く、自治体立病院が 6.6 例とこれに次いでいた。

(3) 使用薬物別にみた症例の推移

主たる使用薬物別にみた症例の割合では、1993 年度調査の前後から、覚せい剤症例の割合の増加と有機溶剤症例の割合の低下が顕著になってきている (表 3)。睡眠薬、抗不安薬症例がこれに次いでいるが、これらを含め、覚せい剤、有機溶剤以外の症例の割合は 10%以下である。

主たる使用薬物が臨床的にひとつに決定できなかった「多剤使用症例」の存在も決して少なくないと考えられることから、1996 年度は「その他多剤」として集計を開始した⁶⁾。1998 年以降は、複数選択された主たる使用薬物がいずれも医薬品である症例を「多剤 (医薬品)」、複数の薬物の中に規制薬物が含まれる場合は「多剤 (規制薬物)」として分類した。これら

の多剤使用症例の内訳を表 4 に示す。これらの症例が症例全体に占める割合は 1998 年以降減少傾向がみられている。

初回使用薬物をみると、報告された全症例のうち 40～50%が有機溶剤としており、覚せい剤を凌いで最も高い割合であった (表 5)。

また、「使用歴を有する薬物」としては、同様に報告された症例のうちほぼ 60%以上の症例が覚せい剤としており、有機溶剤より高い割合を示した (表 6)。

(4) 大麻使用症例の推移 (表 7)

大麻乱用の一層の拡大が懸念される現状から鑑み、大麻使用症例についてあらためて抽出したところ、大麻を「主たる使用薬物」とする症例の割合は報告症例全体の 1～2%前後と低いが、「これまでに大麻の使用歴を有する症例」の割合は 1996 年⁶⁾、2002 年調査⁹⁾でそれぞれ前年に比較してほぼ倍増するなど、著しい増加傾向がみられた。

(5) 性比および年齢 (表 8)

覚せい剤、有機溶剤等の規制薬物を主たる使用薬物とする症例においては、男性が 80%前後と優位で、30 歳代を中心にして比較的幅広い年齢分布がみられた。

一方、睡眠薬、抗不安薬等の医薬品の症例では、男女比が接近し、平均年齢も 40 歳前後と高くなっている。

また、鎮咳薬症例については、他の医薬品症例と異なり、性比では男性優位で、平均年齢も 30 歳前後と、規制薬物症例の特徴に近い。

(なお、1989 年度調査²⁾における鎮痛薬症例の平均年齢が他の年度に比較して極端に低くなっているが、10 歳以下の症例が複数例含まれていたため、これらの乱用・依存状況の詳細は不明であるため、参考値にとどめたい。)

(6) 初回使用年齢 (表 9)

初回使用年齢では、規制薬物および鎮咳薬症例は20～30歳前後であったのに対して、医薬品症例では30～40歳前後と、二分化していた。有機溶剤症例では全調査において16歳前後ともっとも低年齢で薬物使用が始まっていた。最近の調査では、大麻症例がこれに次いで初回使用年齢が低い傾向を示している。

(7) 薬物使用期間 (表 10, 11)

主たる薬物の使用期間についての男女別割合を表 10 に、男女合計の割合を表 11 に示す。「薬物使用期間」を厳密に評価することは難しく、ここでは便宜的に「調査時年齢－初回使用年齢」で求めた値を用いている。

使用期間が1年未満である「初期乱用者」の割合は概ね5%前後で、顕著な変化はみられず概ね横ばいであった。覚せい剤症例では、大きな差ではないものの、女性の初期乱用者の割合が男性より高い傾向がみられたが、全体としてはやや減少傾向がみられている。有機溶剤でも、女性において初期乱用者の割合がより高い傾向がみられた。

一方、薬物使用開始後5年以上が経過した「長期乱用群」は全体の40～80%を占め、覚せい剤、有機溶剤や鎮咳薬症例ではとくに70～80%と高い割合を示していた。性別にみると、覚せい剤、有機溶剤症例では男性の割合が高い傾向がみられた。

(8) 喫煙状況 (表 12)

「非喫煙者」と「1日21本以上の喫煙者」の性別にみた割合を表 12 に示す。(ただし、2002年度は、非喫煙者のデータのみ。)薬物によってばらつきがあるが、全般的にみると非喫煙者より21本以上/日の喫煙者の割合が高い。とくに規制薬物症例では非喫煙者の割合が低い傾向がみられる。21本以上/日の喫煙者の割合は、20～30%前後ないしはそれ以上でやや男性の割合が高い傾向がみられた。

(9) 飲酒状況 (表 13)

「乱用的飲酒」(“健康及び社会生活に影響を及ぼすような飲酒者”)の既往のある症例の割合について、性別にみた割合を表 13 に示す。全体的にみると男性の割合が高い傾向があるが、最近の調査では男女比は接近する傾向もみられる。有機溶剤、鎮咳薬症例ではむしろ女性の方が高い割合を示すことが多かった。覚せい剤症例においても男女比が接近する傾向がみられた。睡眠薬、抗不安薬、鎮痛薬症例では30～50%の割合を示すことが多い。

(10) 薬物初回使用の動機 (表 14～16)

薬物初回使用の動機をみると、覚せい剤症例では男女とも「刺激を求めて」「好奇心」あるいは「快感を求めて」等の高い割合が目立った(表 14)。「断り切れずに」「性的効果を求めて」では女性の割合が高い傾向がみられた。その他、「覚醒効果」「疲労の軽減」などの覚せい剤の薬理効果自体が初回使用の動機であった割合が10%前後にみられた。

有機溶剤症例でも同様に男女とも「刺激を求めて」「好奇心」の割合が高かった(表 15)。次いで、「快感を求めて」「やけになって」「ストレス解消」「不安の軽減」などが10～30%程度にみられた。

鎮咳薬症例では、本来の薬理効果である「咳嗽の軽減」を初回使用の動機とする割合は低く、「好奇心」「快感を求めて」「ストレス解消」や「不安の解消」を初回使用の動機とする症例の割合が30～50%前後と高かった(表 16)。

その他、睡眠薬、抗不安薬、鎮痛薬などの医薬品症例では、それぞれ「不眠の軽減」、「不安の軽減」、「疼痛の軽減」といった本来の薬理効果を求めて使用を始めた症例が50～70%にみられた。

(11) 初回使用の契機となった人物 (表 17,

18)

覚せい剤症例の男性では、「同性の友人」の割合が40～60%と高く、次いで「知人」「密売人」などであった(表17)。一方、女性では「異性の友人」「恋人・友人」「同棲中の相手」などの異性パートナーの割合が高いのが特徴的であった。

有機溶剤症例では、男女とも「同性の友人」の割合が60～80%と最も高く、男性でより高い傾向がみられた(表18)。「異性の友人」および「恋人・愛人」といった異性パートナーの関与は、覚せい剤症例同様に女性においてより高い傾向がみられた。

睡眠薬、抗不安薬症例では、40～50%前後が「医師」の処方契機となっており、20～30%の症例では「なし」、すなわち乱用開始から単独での使用とみられた。

(1 2) 薬物の入手経路(表19～21)

覚せい剤症例では、全体として「友人」「知人」「密売人」の割合が高い傾向があり、女性においては「恋人・愛人」と異性パートナーの割合が高いが目立った(表19)。一方で、「最近1年間使用なし」が男女とも40%前後にみられた。

有機溶剤症例では、「友人」が最も高い割合を示し、やや女性に高い傾向がみられた(表20)。「最近1年間使用なし」は男性でやや割合が高く、「恋人・友人」は女性に高い傾向がみられた。

睡眠薬、抗不安薬症例では、60～70%前後は「医師」で、医療機関からの処方と考えられた。鎮痛薬症例では、「医師」「薬局」からの入手が半数前後にみられた。鎮咳薬症例では、薬局からの入手がほとんどであった(表21)。

(1 3) 覚せい剤初回使用方法(表22)

性別にみた覚せい剤の初回使用方法については、男女とも「静注」の割合が70～80%と圧

倒的に高い割合を示した。ただし、若干ながら「静注」の割合が下降傾向にあり、「吸煙(加熱吸煙)」の割合が漸増しつつある傾向もうかがえる。

(1 4) 精神医学的状态像(表23～25)

精神医学的状态像については、1994年度⁵⁾は「急性中毒」および「残遺症候群・残遺性障害」の項目はなく、1996年度⁶⁾は“厚生省専門家会議”の診断分類によるもので、個々に存在する状態像についての報告を求めたものであるため、結果的に各状態像とも割合が高くなっている。1998年度以降^{7) 8) 9)}は、ICD-10による主診断の記載を求めている。

覚せい剤症例では、半数前後が「精神病性障害」、1/3程度が「残遺症候群・残遺性障害」で、これらが全体の70～80%を占めていた(表23)。一方、「依存症候群」を主診断とする症例の割合は全体の1/6程度と低かった。

有機溶剤症例では、「依存症候群」の割合が最も高く、「精神病性障害」がこれに次ぎ、両者で全体の約60%を占めていた(表24)。

医薬品症例では、60～70%前後が「依存症候群」で最も高い割合を示していた(表25)。

D. 考察

1987年以降施行されてきた本実態調査について共通調査項目を中心に経時的検討を行った。覚せい剤、有機溶剤が主たる使用薬物として最も高い割合を示したが、1993年前後から、覚せい剤の増加傾向、有機溶剤の減少傾向が目立ち始めている。使用歴を有する薬物としても、報告された全症例の60%前後が覚せい剤としており、医療の現場において覚せい剤乱用が最も大きな問題であることは言を待たない。一方で、有機溶剤は主たる使用薬物としては減少傾向にあるものの、初回使用薬物としては50%前後と覚せい剤を凌いでおり、薬物乱用へのgatewayとしての役割は依然として軽視でき

ない。

覚せい剤症例では、使用開始後1年未満の「初期乱用者」は5%前後とほぼ横ばい乃至は若干の減少傾向がみられたが、5年以上の「長期乱用者」はやや増加傾向がみられた。長期乱用者の増加と症状遷延化傾向については、すでに1991年調査³⁾で指摘されているが、この傾向は持続しつつあることが示唆された。

覚せい剤症例の「初回使用の動機」においては、「刺激を求めて」「好奇心」「快感を求めて」の割合が高く、「断り切れずに」「性的効果を求めて」では女性で高い傾向がみられた。「初回使用の契機となった人物」や「入手経路」でも、男性では「同性の友人」や「密売人」が高かったのに対して、女性では「異性パートナー」が高いことが特徴的であった。以上から、覚せい剤乱用の開始に際して、女性において異性パートナーの関与がより強くみられることが示唆された。初回使用方法では、男女とも80%近くが「静注」であったが、「加熱吸煙」の割合も徐々に高くなる傾向がみられた。「主たる状態像」では、覚せい剤症例で「精神病性障害」が50%前後と高く、「残遺性障害」も約30%とこれに次いで高かったが、「依存症候群」は10%前後と低かった。医療現場では、治療の直接的対象となる病像が、依存症そのものよりも、精神病症状、あるいはそれらの症状の長期化・慢性化が中心になっていることが示唆される。

有機溶剤症例では、「初回使用の契機」となった人物として、覚せい剤症例と同様に女性で異性パートナーの割合が高かったが、「同性の友人」では男女差が少なかった。また入手経路では、やはり女性において「異性パートナー」とともに「友人」の割合が高かった。有機溶剤乱用における同性の友人の“peer pressure”の役割の相対的な大きさが示唆された。状態像では、依存症候群、精神病性障害が1/3程度を占めていた。

大麻は、主たる使用薬物としては1~2%を占

めるに過ぎないが、使用歴を有する薬物としては20%を超えるなど、著明に増加しており、一般社会での乱用の拡大を反映していると考えられる。MDMA等とともに今後の乱用拡大に一層注意が必要であろう。

医薬品症例においては、睡眠薬、抗不安薬、鎮痛薬症例では、当初は医薬品本来の薬理効果を求めて医療機関から処方されることが多いが、次第に乱用・依存が進行していく経過が示唆された。状態像としては、依存症候群が2/3前後と高い割合であった。鎮咳薬症例においては男女比、年齢などいくつかの点で規制薬物と類似したプロフィールがみられており、初回使用動機では「遊び型乱用」と自己治療(self-medication)的側面が伺われた。いずれにしても、処方薬の乱用・依存の問題については、投薬する医師側の認識をより高める努力をする必要がある。

E. 結論

1) 1987年度以降の病院調査について、主に共通した調査項目に関する経時的分析を行った。回答率は概ね50%を超え、病床数からも同程度にカバーしており、全数調査として意義のある調査が施行されていると考えられる。

2) 「覚せい剤」は主たる使用薬物としては50~60%と最も高い割合で漸増傾向にあり、使用歴を有する薬物としても最も高い割合を示した。

3) 「有機溶剤」は主たる使用薬物としては20%前後と減少傾向にあるが、初回使用薬物としては40~50%と覚せい剤よりも最も高い割合を示した。若年層における薬物乱用へのgatewayとしての役割は今なお重要であると考えられた。

4) 「大麻」は、主たる使用薬物としては1~2%を占めるに過ぎないが、使用歴を有する薬物としては20%を超えるなど、著明に増加しており、一般社会での乱用の拡大を反映している

考えられた。

5) 各薬物症例群において、使用期間が1年未満の「初期乱用者」の割合は5%前後で、顕著な変化はみられず概ね横ばいであったが、覚せい剤症例ではやや減少傾向がみられた。

6) 「長期乱用群（薬物使用開始後5年以上経過）」は40～80%を占め、覚せい剤、有機溶剤ではやや増加傾向がみられた。

7) 医薬品症例の多くは依存症候群を呈しており、こうした処方薬の乱用・依存の問題については、医療者側がより適切に認識する必要があると考えられた。

F. 研究発表

1) 論文・著書

(1) 尾崎 茂：薬物依存症の最近の動向。精神科 28(3)：205-212, 2003。

(2) 尾崎 茂：メチルフェニデート関連精神障害。「日本臨床」別冊「精神医学症候群Ⅲ」：522-526, 2003。

(3) 尾崎 茂：有機溶剤依存症の治療に関する提言。臨床精神薬理 6(9)：1169-1176, 2003。

(4) 尾崎 茂：薬物乱用・依存の現状－精神科医療施設からみた現状－。こころの科学 111：22-27, 2003。

(5) 尾崎 茂：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。精神保健研究 49：23-27, 2003。

(6) 尾崎 茂：国際保健からみた薬物乱用の現状とわが国の対応－精神病院からみた現状－。日本アルコール・薬物医学会雑誌 39(1)：35-40, 2004。

2) 学会発表

(1) 尾崎 茂：国際保健からみた薬物乱用の現状とわが国の対応－精神病院からみた現状－。第38回日本アルコール・薬物医学会総会、メインシンポジウム1(市民公開講座2)。2003年7月4日、東京。

G. 参考文献

(1) 福井 進, 和田 清, 伊豫雅臣他：薬物依存の疫学的調査研究(その1)。厚生省精神・神経疾患研究委託費－薬物依存の成因と病態に関する研究。昭和62年度研究報告書：169-182, 1988。

(2) 福井 進, 和田 清, 伊豫雅臣他：薬物依存の疫学的調査研究－その3。厚生省精神・神経疾患研究委託費－薬物依存の成因と病態に関する研究。平成元年度研究報告書：171-181, 1990。

(3) 福井 進, 和田 清, 伊豫雅臣他：薬物乱用・依存の実態と動向に関する研究(その2)－医療施設実態調査より－。厚生省精神・神経疾患研究委託費－薬物依存の発生機序と臨床および治療に関する研究。平成3年度報告書：143-152, 1992。

(4) 清水順三郎, 福井 進：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成5年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存の社会医学的、精神医学的特徴に関する研究。平成5年度研究成果報告書：79-104, 1994。

(5) 清水順三郎：精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成6年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存の社会医学的、精神医学的特徴に関する研究。平成6年度研究成果報告書：87-118, 1995。

(6) 尾崎 茂：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成8年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究。第1分冊「薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究」平成8年度研究成果報告書：61-86, 1997。

(7) 尾崎 茂, 和田 清, 福井 進：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の

実態調査。平成 10 年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究。平成 10 年度研究報告書：85-116, 1999。

（8）尾崎 茂，和田 清，福井 進：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成 12 年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）薬物乱用・依存等の

疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究。平成 12 年度研究報告書：77-118, 2001。

（9）尾崎 茂，和田 清：全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査。平成 14 年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究。平成 14 年度研究報告書：87-128, 2003。

表 1 調査年度別にみた回答状況

調査年度	総施設数	回答施設数	「症例あり」施設数		回答症例数	「症例なし」施設数		1施設あたり回答症例数
1987	1,584	776 (49.0%)	310	(19.6%)	881	466	(29.4%)	2.8
1989	1,564	789 (50.4%)	287	(18.4%)	915	502	(32.1%)	3.2
1991	1,587	851 (53.6%)	309	(19.5%)	938	542	(34.2%)	3.0
1993	1,572	799 (50.8%)	266	(16.9%)	933	533	(33.9%)	3.5
1994	1,572	772 (49.1%)	258	(16.4%)	988	514	(32.7%)	3.8
1996	1,567	578 (36.9%)	251	(16.0%)	904	327	(20.9%)	3.6
1998	1,648	835 (50.7%)	275	(16.7%)	910	560	(34.0%)	3.3
2000	1,652	840 (50.8%)	251	(15.2%)	981	589	(35.7%)	3.9
2002	1,645	866 (52.6%)	198	(12.0%)	876	668	(40.6%)	4.4
(平均)	1,599	790 (49.3%)	267	(16.7%)	925	522	(32.6%)	3.5

表 2 施設種別にみた回答状況

	大学病院	民間病院	国立病院	自治体立病院	計
1994(施設数)	79	1262	49	182	1572
回答施設数	58 (73.4%)	587 (46.5%)	30 (61.2%)	97 (53.3%)	772
症例あり施設数	26 (44.8%)	177 (30.2%)	13 (43.3%)	42 (43.3%)	258
該当症例数	53 (5.4%)	609 (61.6%)	181 (18.3%)	145 (14.7%)	988
施設あたり症例数	2.0	3.4	13.9	3.5	3.8
1996(施設数)	84	1291	49	143	1567
回答施設数	38 (45.2%)	457 (35.4%)	25 (51.0%)	58 (40.6%)	578
症例あり施設数	22 (57.9%)	182 (39.8%)	17 (68.0%)	30 (51.7%)	251
該当症例数	53 (5.9%)	531 (58.7%)	167 (18.5%)	153 (16.9%)	904
施設あたり症例数	2.4	2.9	9.8	5.1	3.6
1998(施設数)	83	1374	48	143	1648
回答施設数	66 (79.5%)	639 (46.5%)	35 (72.9%)	95 (66.4%)	835
症例あり施設数	30 (45.5%)	182 (28.5%)	18 (51.4%)	45 (47.4%)	275
該当症例数	60 (6.6%)	551 (60.5%)	110 (12.1%)	189 (20.8%)	910
施設あたり症例数	2.0	3.0	6.1	4.2	3.3
2000(施設数)	83	1374	48	147	1652
回答施設数	50 (60.2%)	658 (47.9%)	32 (66.7%)	100 (68.0%)	840
症例あり施設数	16 (32.0%)	169 (25.7%)	20 (62.5%)	46 (46.0%)	251
該当症例数	53 (5.4%)	592 (60.3%)	106 (10.8%)	230 (23.4%)	981
施設あたり症例数	3.3	3.5	5.3	5.0	3.9
2002(施設数)	84	1366	49	146	1645
回答施設数	39 (46.4%)	719 (52.6%)	31 (63.3%)	77 (52.7%)	866
症例あり施設数	14 (35.9%)	137 (19.1%)	17 (54.8%)	30 (39.0%)	198
該当症例数	32 (3.6%)	466 (53.0%)	183 (20.8%)	198 (22.5%)	879
施設あたり症例数	2.3	3.4	10.8	6.6	4.4

(注) 症例あり施設数(%)=症例あり施設数/回答施設数

表3 主たる使用薬物別症例(%)の推移

(調査年度)	1987	1989	1991	1993	1994	1996	1998	2000	2002
(総症例数)	881	915	938	933	988	904	910	981	876
主たる使用薬物別にみた症例全体に占める割合(%)									
覚せい剤	39.2	40.8	35.3	41.9	42.8	56.3	48.0	57.6	55.0
有機溶剤	34.2	38.7	40.7	33.9	31.9	22.8	25.5	19.6	18.7
睡眠薬	9.6	5.5	6.9	10.4	10.9	4.2	6.2	5.8	6.7
抗不安薬	2.4	1.9	2.7	1.9	1.9	1.4	1.3	1.6	1.9
鎮痛薬	9.5	7.0	6.5	4.7	4.4	2.2	2.2	2.7	2.7
鎮咳薬	3.4	3.9	3.4	4.4	4.8	2.3	2.7	1.5	3.5
大麻	0.1	0.8	1.3	1.5	1.3	0.9	1.1	0.7	2.6
コカイン	—	0.2	0.2	0.3	0.3	0.0	0.0	0.4	0.1
その他	1.5	0.5	1.2	0.5	0.9	0.4	1.5	1.6	1.7
多剤(1996～)	—	—	—	—	—	9.4	11.4	8.5	7.0

(—:当該質問項目なし)

表4 多剤使用症例の内訳

	1996	1998	2000	2002
その他多剤	85例(9.4%)	—	—	—
多剤(医薬品)	—	61例(6.7%)	36例(3.7%)	26例(3.0%)
多剤(規制薬物)	—	43例(4.7%)	47例(4.8%)	35例(4.0%)
計	85例(9.4%)	104例 (11.4%)	83例(8.5%)	61例(7.0%)

表5 初回使用薬物

	1996	1998	2000	2002
有機溶剤	53.2%	48.7%	44.0%	46.2%
覚せい剤	32.5%	34.3%	42.6%	30.2%
睡眠薬・抗不安薬	11.0%	15.7%	13.1%	9.0%
大麻	3.9%	4.5%	4.2%	4.4%
鎮痛薬	4.3%	5.0%	4.7%	3.0%
鎮咳薬	2.9%	3.7%	2.8%	2.8%

表 6 使用歴のある薬物

	1996	1998	2000	2002
覚せい剤	62.5%	59.2%	67.3%	66.2%
有機溶剤	50.7%	47.5%	43.6%	50.1%
大 麻	11.5%	11.4%	9.8%	22.0%
睡眠薬	19.2%	18.4%	16.5%	20.3%
抗不安薬	10.3%	10.8%	9.6%	13.1%
鎮痛薬	9.7%	9.4%	7.7%	8.9%
鎮咳薬	7.1%	7.5%	4.5%	7.5%
コカイン	3.7%	4.4%	3.6%	6.8%
ヘロイン	0.8%	1.7%	1.3%	2.7%

表 7 大麻使用症例の推移

	1993	1994	1996	1998	2000	2002
大麻を主たる使用薬物とする症例	1.5%	1.3%	0.9%	1.1%	0.7%	2.5%
大麻使用歴のある症例	5.3%	5.4%	10.7%	11.4%	9.8%	22.0%
全症例数	933	988	904	937	981	878

表 8 主たる使用薬物別にみた性比と平均年齢

	1989		1991		1993		1994		1996		1998		2000		2002	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
覚せい剤	81	19	86	14	69	29	74	25	78	21	73	27	76	24	75	26
	27.7	34.9	35.5	28.6	33.3	25.3	36.0	28.7	37.9	29.6	37.2	30.0	37.6	30.7	39.6	31.2
	29.0		34.5		30.9		34.0		36.1		35.8		35.9		37.4	
有機溶剤	81	19	80	20	84	16	84	15	90	9	84	16	83	17	83	17
	40.4	46.8	23.6	18.7	25.6	18.5	26.3	20.4	29.3	21.6	30.3	24.6	29.4	23.5	31.7	26.9
	41.7		22.6		24.5		25.4		28.5		28.6		28.4		30.9	
大麻	100	0	83	17	86	14	92	8	75	25	70	30	86	14	100	-
	36.0	-	26.1	36.5	35.2	16.0	29.0	20.0	28.2	27.7	30.3	24.0	23.3	26.0	24.1	-
	36.0		27.8		33.3		27.9		28.0		29.0		23.7		24.1	
睡眠薬	63	38	57	43	54	46	56	43	71	29	52	48	46	54	51	49
	19.4	21.8	42.9	42.2	46.0	43.1	46.6	39.9	43.8	41.0	43.4	37.5	33.1	36.4	40.9	36.9
	20.3		42.6		44.6		43.5		42.5		43.2		34.9		38.9	
抗不安薬	77	24	72	28	72	28	53	47	46	54	29	71	31	69	53	47
	20.0	27.5	41.8	43.6	40.1	48.2	38.1	39.3	46.5	41.1	41.7	58.3	39.6	35.9	37.8	32.0
	22.1		42.3		42.5		38.7		39.0		40.8		37.1		34.9	
鎮痛薬	48	52	53	48	43	57	70	30	75	25	45	55	54	46	50	50
	14.4	20.9	45.6	49.8	46.0	44.0	46.0	56.5	44.2	49.5	43.0	42.6	47.2	39.1	49.4	45.6
	17.8		47.7		44.9		49.1		44.8		46.6		43.5		47.4	
鎮咳薬	50	50	59	41	83	17	75	23	76	24	80	20	73	27	74	26
	36.0	24.9	29.8	30.5	28.5	32.4	30.5	29.9	32.2	31.6	30.8	32.2	34.5	35.5	31.8	27.9
	33.7		30.1		29.2		30.3		32.0		28.5		34.7		30.8	

(上段より, 性比(%), 性別平均年齢, 全体の平均年齢)

表9 主たる使用薬物別に見た初回使用年齢

主たる使用 薬物	1989		1991		1993		1994		1996		1998		2000		2002	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
覚せい剤	26.5	22.2	23.9	23.8	22.8	19.9	22.6	20.7	22.7	20.0	22.7	21.1	23.0	21.8	22.9	20.3
	25.7		23.9		21.9		22.1		22.2		22.3		22.7		22.3	
有機溶剤	16.6	14.7	16.3	15.7	16.2	15.4	16.3	17.7	16.3	14.9	15.6	16.1	15.8	16.7	15.7	15.0
	16.3		16.2		16.0		16.5		16.1		15.7		16.0		15.6	
睡眠薬	37.5	34.3	35.4	31.2	39.7	36.8	39.6	33.0	33.4	32.7	36.1	30.8	28.3	29.6	32.9	27.6
	36.2		33.8		38.3		36.0		33.6		36.0		29.1		30.0	
抗不安薬	37.0	34.5	34.7	33.8	33.9	41.0	34.5	28.3	27.0	33.3	37.3	43.1	28.0	32.2	24.6	24.0
	36.4		34.5		35.8		31.6		31.0		33.2		30.3		24.4	
鎮痛薬	42.9	35.9	35.4	33.4	32.1	32.0	33.4	44.1	32.7	38.3	25.4	32.8	32.0	30.4	35.3	32.0
	39.3		34.5		32.0		36.4		34.3		31.1		31.1		33.3	
鎮咳薬	22.0	31.8	23.5	19.5	22.1	26.0	21.6	23.6	25.0	25.4	19.7	23.2	22.0	26.0	21.8	21.4
	24.2		22.0		22.8		22.0		25.1		20.7		23.1		21.6	
大麻	22.4	-	18.1	20.0	24.1	16.0	19.7	18.0	20.0	25.7	19.2	19.5	17.3	21.0	19.1	-
	22.4		18.6		23.1		19.4		22.4		21.4		18.0		19.1	

(上段より, 性別平均年齢, 全体の平均年齢)

表 10 性別にみた主たる使用薬物の使用期間

主たる使用 薬物	年	1989		1991		1993		1994		1996		1998		2000		2002	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
覚せい剤	～1	5.1	1.4	7.9	14.8	5.1	7.6	4.2	4.5	2.7	7.2	0.8	3.1	2.6	5.8	1.1	4.9
	～3	3.4	8.7	6.7	25.9	15.8	28.8	8.3	15.9	7.5	17.1	8.0	9.4	7.7	15.8	4.7	6.5
	～5	3.7	0.0	9.7	14.8	8.9	18.2	5.0	13.6	5.7	13.5	7.7	14.2	6.6	15.1	6.1	13.8
	5≤	44.8	65.2	63.6	29.6	58.9	34.8	63.3	56.8	65.6	46.8	63.8	57.5	62.8	54.0	80.2	67.5
有機溶剤	～1	0.0	0.0	7.2	12.9	2.9	13.6	3.0	16.2	1.2	15.4	1.5	5.1	1.3	21.2	2.2	10.7
	～3	0.4	0.0	16.5	40.0	8.4	25.0	8.1	8.1	5.2	7.7	6.5	15.4	8.8	15.2	4.4	10.7
	～5	1.1	0.0	13.3	21.4	11.8	29.5	10.2	24.3	5.8	0.0	5.0	12.8	4.4	15.2	6.6	7.1
	5≤	94.3	95.6	56.8	17.1	69.7	25.0	76.6	37.8	78.6	69.2	76.6	48.7	76.7	45.5	84.6	60.7
大麻	～1	0.0		10.0	0.0	22.2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0
	～3	0.0		10.0	0.0	11.1	0.0	28.6	100.0	0.0	66.7	12.5	50.0	0.0	0.0	43.5	0.0
	～5	0.0		20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	33.3	12.5	0.0	16.7	0.0	21.7	0.0
	5≤	57.1		50.0	50.0	44.4	0.0	57.1	0.0	60.0	0.0	37.5	50.0	50.0	100.0	30.4	0.0
睡眠薬	～1	3.3	0.0	2.7	7.1	8.3	9.8	8.3	2.7	8.0	0.0	3.7	4.7	7.7	9.7	0.0	0.0
	～3	3.3	5.6	29.7	10.7	25.0	9.8	20.8	35.1	20.0	27.3	9.3	11.6	3.8	12.9	20.0	10.3
	～5	6.7	0.0	13.5	10.7	4.2	9.8	8.3	13.5	12.0	9.1	14.8	18.6	11.5	6.5	13.3	17.2
	5≤	16.7	16.7	37.8	42.9	35.4	53.7	31.3	35.1	44.0	45.5	48.1	46.5	30.8	41.9	36.7	51.7
抗不安薬	～1	0.0	0.0	0.0	28.6	8.3	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
	～3	7.7	0.0	27.8	14.3	16.7	20.0	11.1	12.5	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0	9.1	11.1	12.5
	～5	0.0	0.0	22.2	14.3	16.7	0.0	33.3	12.5	16.7	14.3	33.3	6.7	20.0	27.3	0.0	12.5
	5≤	15.4	25.0	38.9	14.3	50.0	60.0	44.4	50.0	50.0	85.7	33.3	26.7	80.0	18.2	66.7	37.5
鎮痛薬	～1	0.0	0.0	3.1	3.4	0.0	4.3	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0
	～3	0.0	0.0	15.6	3.4	0.0	8.7	11.1	27.3	20.0	25.0	6.7	0.0	14.3	25.0	0.0	0.0
	～5	3.3	3.0	9.4	10.3	11.1	8.7	18.5	0.0	6.7	0.0	0.0	11.8	7.1	16.7	0.0	16.7
	5≤	0.0	18.2	53.1	65.5	72.2	60.9	51.9	54.5	33.3	50.0	46.7	64.7	21.4	33.3	41.7	75.0
鎮咳薬	～1	0.0	0.0	5.3	0.0	3.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	～3	3.6	12.5	5.3	0.0	25.0	0.0	10.0	11.1	6.3	20.0	4.0	16.7	0.0	0.0	8.7	12.5
	～5	0.0	0.0	26.3	30.8	12.5	28.6	10.0	11.1	18.8	20.0	4.0	16.7	9.1	0.0	4.3	12.5
	5≤	71.4	37.5	57.9	53.8	56.3	57.1	60.0	66.7	50.0	60.0	44.0	50.0	81.8	75.0	73.9	75.0

表 11 主たる使用薬物の使用期間(男女計)

主たる使用薬物	使用期間	調査年度							
		1989	1991	1993	1994	1996	1998	2000	2002
覚せい剤	1年未満	4.4%	8.9%	5.7%	3.1%	7.3%	5.7%	6.5%	4.8%
	5年以上	48.6%	59.3%	51.9%	59.4%	62.9%	63.0%	44.4%	75.7%
有機溶剤	1年未満	0.0%	8.3%	4.6%	4.7%	7.3%	2.8%	5.7%	4.3%
	5年以上	94.6%	49.1%	63.1%	72.4%	75.3%	77.4%	63.5%	80.5%
睡眠薬	1年未満	2.1%	4.6%	8.2%	5.6%	10.3%	8.3%	10.5%	0.0%
	5年以上	16.7%	40.0%	46.4%	40.7%	48.2%	56.2%	31.6%	71.2%
抗不安薬	1年未満	0.0%	8.0%	5.6%	5.3%	0.0%	12.5%	0.0%	5.9%
	5年以上	17.6%	32.0%	55.6%	47.5%	100.0%	62.5%	37.7%	70.6%
鎮痛薬	1年未満	0.0%	3.3%	2.3%	0.0%	15.4%	0.0%	0.0%	4.2%
	5年以上	9.5%	59.0%	63.6%	55.9%	46.2%	87.7%	26.7%	87.5%
鎮咳薬	1年未満	0.0%	3.1%	4.9%	0.0%	0.0%	5.0%	6.7%	0.0%
	5年以上	63.9%	56.3%	56.1%	68.1%	70.6%	70.0%	66.7%	80.7%
大麻	1年未満	0.0%	8.3%	21.4%	0.0%	14.3%	12.5%	0.0%	8.7%
	5年以上	57.1%	50.0%	35.6%	61.6%	42.9%	37.5%	42.9%	43.5%

表 12 喫煙状況

主たる使用薬物	喫煙状況	1994		1996		1998		2000		2002	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
覚せい剤	非喫煙者*	11.7%	15.9%	7.0%	9.9%	8.3%	12.6%	7.0%	10.8%	1.9%	3.3%
	21本以上/日	32.5%	34.1%	34.2%	27.0%	28.2%	28.3%	25.5%	28.8%	—	—
有機溶剤	非喫煙者*	10.2%	13.5%	4.6%	7.7%	4.5%	17.9%	3.8%	9.1%	3.7%	3.6%
	21本以上/日	21.8%	8.1%	32.9%	30.8%	35.8%	20.5%	34.0%	15.2%	—	—
睡眠薬	非喫煙者*	18.8%	24.3%	4.0%	9.1%	20.4%	16.3%	19.2%	22.6%	16.7%	3.4%
	21本以上/日	31.3%	27.0%	48.0%	9.1%	20.4%	30.2%	23.1%	19.4%	—	—
抗不安薬	非喫煙者*	0.0%	37.5%	33.3%	57.1%	16.7%	13.3%	40.0%	36.4%	0.0%	0.0%
	21本以上/日	22.2%	0.0%	66.7%	0.0%	50.0%	6.7%	20.0%	18.2%	—	—
鎮痛薬	非喫煙者*	29.6%	18.2%	20.0%	25.0%	13.3%	35.3%	7.1%	25.0%	25.0%	25.0%
	21本以上/日	14.8%	18.2%	20.0%	0.0%	20.0%	11.8%	28.6%	16.7%	—	—
鎮咳薬	非喫煙者*	13.3%	0.0%	12.5%	20.0%	4.0%	0.0%	9.1%	25.0%	17.4%	0.0%
	21本以上/日	46.7%	22.2%	18.8%	0.0%	28.0%	50.0%	45.5%	25.0%	—	—
大麻	非喫煙者*	28.6%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	—
	21本以上/日	14.3%	0.0%	20.0%	66.7%	37.5%	50.0%	66.7%	100.0%	—	—

表 13 性別にみた「乱用的飲酒」の既往を有する症例の割合

主たる使用薬物	1994		1996		1998		2000	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
覚せい剤	10.8%	4.5%	30.9%	17.1%	26.5%	24.4%	18.3%	19.4%
有機溶剤	3.6%	5.4%	20.8%	23.1%	20.4%	23.1%	13.2%	21.2%
睡眠薬	20.8%	10.8%	36.0%	9.1%	35.2%	41.9%	42.3%	22.6%
抗不安薬	11.1%	12.5%	33.3%	0.0%	50.0%	13.3%	100.0%	27.3%
鎮痛薬	11.1%	9.1%	46.7%	0.0%	20.0%	23.5%	42.9%	16.7%
鎮咳薬	10.0%	11.1%	18.8%	20.0%	12.0%	16.7%	18.2%	50.0%
大麻	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%

表 14 性別にみた薬物初回使用の動機(覚せい剤症例)

動 機	1989		1991		1993		1998		2000		2002	
	男性	女性										
刺激を求めて	43.1%	40.6%	32.7%	51.9%	55.1%	43.9%	36.7%	31.5%	27.4%	27.5%	29.5%	21.1%
好奇心	—	—	—	—	—	—	—	—	45.0%	40.6%	81.6%	55.3%
やけになって	10.1%	5.8%	7.3%	0.0%	7.6%	13.6%	2.5%	9.4%	3.3%	5.8%	7.0%	7.3%
断りきれずに	—	—	—	—	—	—	9.9%	20.5%	7.7%	18.8%	21.7%	27.6%
覚醒効果を求めて	16.8%	8.7%	13.3%	22.2%	10.8%	12.1%	11.9%	7.1%	11.2%	11.6%	7.0%	2.4%
疲労の軽減	12.8%	7.2%	10.9%	7.4%	13.3%	16.7%	8.8%	4.7%	9.1%	9.4%	9.7%	1.6%
性的効果を求めて	8.8%	18.8%	9.7%	29.6%	10.8%	13.6%	4.4%	7.1%	2.8%	10.9%	3.3%	3.3%
ストレス解消	15.8%	2.9%	5.5%	14.8%	10.1%	10.6%	5.8%	7.1%	5.4%	10.1%	9.2%	5.7%
快感を求めて	44.1%	24.6%	21.8%	33.3%	35.4%	28.8%	—	—	—	—	—	—
不安の軽減	6.7%	2.9%	4.2%	0.0%	5.1%	6.1%	3.0%	5.5%	5.2%	12.3%	3.9%	4.9%

(複数回答。—: 当該質問項目なし)

表 15 性別にみた薬物初回使用の動機(有機溶剤症例)

動機	1989		1991		1993		1998		2000		2002	
	男性	女性										
刺激を求めて	58.3%	52.9%	54.7%	47.1%	49.6%	61.4%	52.2%	51.3%	28.9%	30.3%	33.8%	17.9%
好奇心	—	—	—	—	—	—	—	—	71.7%	60.6%	71.3%	64.3%
やけになって	18.4%	20.6%	13.3%	20.0%	11.3%	15.9%	7.0%	15.4%	6.3%	21.2%	3.7%	3.6%
断りきれずに	—	—	—	—	—	—	15.9%	23.1%	13.8%	12.1%	15.4%	14.3%
性的効果を求めて	1.1%	0.0%	1.4%	1.4%	0.8%	0.0%	1.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.7%	0.0%
ストレス解消	20.8%	16.2%	21.6%	8.6%	11.3%	6.8%	12.9%	10.3%	8.8%	30.3%	13.2%	10.7%
快感を求めて	31.8%	19.1%	33.1%	35.7%	30.7%	18.2%	—	—	—	—	—	—
不安の軽減	9.9%	7.4%	13.3%	17.1%	10.5%	11.4%	7.5%	7.7%	8.2%	15.2%	8.8%	14.3%

(複数回答。—:当該質問項目なし)

表 16 薬物初回使用の動機(鎮咳薬症例)

動機	1989	1991	1993	1998	2000	2002
刺激を求めて	33.3%	43.8%	25.6%	44.0%	33.3%	32.3%
好奇心	—	—	—	—	46.7%	45.2%
やけになって	13.9%	6.3%	0.0%	4.0%	6.7%	0.0%
断りきれずに	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	6.7%	25.8%
覚醒効果を求めて	13.9%	12.5%	12.8%	12.0%	20.0%	9.7%
疲労の軽減	25.0%	21.9%	20.5%	20.0%	20.0%	3.2%
性的効果を求めて	2.8%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ストレス解消	22.2%	25.0%	23.1%	20.0%	20.0%	12.9%
快感を求めて	33.3%	37.5%	30.8%	—	—	—
不安の軽減	33.3%	15.6%	15.4%	4.0%	13.3%	19.4%
咳嗽の軽減	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	6.5%

(複数回答。—:当該質問項目なし)

表 17 性別にみた初回使用の契機となった人物(覚せい剤症例)

契機となった人物	1989		1998		2000		2002	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
同棲中の相手	1.7%	18.8%	0.8%	11.0%	1.4%	9.4%	0.0%	4.1%
恋人・愛人	—	—	1.7%	18.1%	1.2%	13.8%	0.0%	13.8%
同性の友人	48.5%	15.9%	39.8%	16.5%	32.1%	19.6%	59.9%	24.4%
異性の友人	4.4%	27.5%	1.4%	19.7%	0.9%	28.3%	4.5%	39.0%
知人	13.8%	11.6%	11.3%	6.3%	15.5%	13.0%	6.1%	4.1%
密売人	16.2%	7.2%	8.6%	3.9%	10.8%	4.3%	0.3%	0.8%

(複数回答。—:当該質問項目なし)

表 18 性別にみた初回使用の契機となった人物(有機溶剤症例)

契機となった人物	1989		1998		2000		2002	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
なし	—	—	10.9%	7.7%	15.1%	9.1%	8.1%	10.7%
恋人・愛人	—	—	0.0%	5.1%	0.6%	3.0%	0.7%	21.4%
同性の友人	81.3%	64.7%	61.2%	51.3%	64.2%	54.5%	72.8%	60.7%
異性の友人	2.1%	23.5%	3.0%	23.1%	2.5%	33.3%	2.9%	28.6%
知人	1.8%	1.5%	7.5%	20.5%	2.5%	0.0%	5.1%	3.6%
密売人	0.4%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	3.6%

(複数回答。—:当該質問項目なし)

表 19 性別にみた薬物の入手経路(覚せい剤症例)

入手経路	1991		1993		1998		2000		2002	
	男性	女性								
最近1年使用なし	—	—	—	—	49.2%	34.6%	36.1%	38.4%	50.8%	37.2%
友人	39.4%	22.2%	42.4%	42.4%	4.1%	13.4%	8.0%	38.4%	7.7%	12.4%
知人	27.3%	33.3%	24.1%	21.2%	7.2%	11.0%	8.9%	12.3%	9.0%	14.2%
恋人・愛人	1.2%	37.0%	1.9%	30.3%	0.8%	11.0%	0.0%	9.4%	0.6%	14.2%
密売人	42.4%	44.4%	43.0%	12.1%	—	—	—	—	—	—
密売人(日本人)	—	—	—	—	13.0%	11.0%	15.7%	9.4%	27.0%	16.8%
密売人(外国人)	—	—	—	—	5.5%	3.9%	4.0%	1.4%	3.5%	3.5%

(複数回答。—:当該質問項目なし)

表 20 性別にみた薬物の入手経路(有機溶剤症例)

入手経路	1991		1993		1998		2000		2002	
	男性	女性								
最近1年使用なし	—	—	—	—	24.9%	7.7%	30.8%	15.2%	45.4%	15.2%
友人	60.8%	71.4%	51.3%	70.5%	15.9%	38.5%	15.1%	27.3%	11.8%	30.3%
知人	20.9%	20.0%	13.4%	15.9%	7.0%	20.5%	4.4%	6.1%	6.7%	6.1%
恋人・愛人	1.1%	11.4%	1.7%	9.1%	0.0%	7.7%	0.0%	9.1%	0.0%	9.1%
密売人	14.7%	18.6%	25.2%	22.7%	—	—	—	—	—	—
密売人(日本人)	—	—	—	—	12.9%	20.5%	5.7%	12.1%	8.4%	21.2%

(複数回答。—:当該質問項目なし)

表 21 入手経路(医薬品症例)

主たる 使用薬 物	入手経路	1991		1993		1998*		2000*		2002*	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
睡眠薬	最近1年使用なし	—	—	—	—	1.9%	9.3%	3.8%	9.7%	8.1%	9.4%
	友人	0.0%	7.1%	4.2%	7.3%	0.0%	2.3%	7.7%	0.0%	2.7%	6.3%
	知人	2.7%	0.0%	6.3%	9.8%	1.9%	2.3%	0.0%	0.0%	5.4%	3.1%
	医師	62.2%	64.3%	68.8%	73.2%	38.9%	30.2%	57.7%	48.4%	51.4%	37.5%
	薬局	32.4%	53.6%	37.5%	48.8%	1.9%	2.3%	73.1%	35.5%	24.3%	43.8%
抗不安 薬	最近1年使用なし	—	—	—	—	0.0%	6.7%	20.0%	9.1%	10.0%	0.0%
	医師	66.7%	85.7%	91.7%	100.0%	66.7%	40.0%	80.0%	45.5%	70.0%	77.8%
	薬局	16.7%	0.0%	8.3%	20.0%	16.7%	6.7%	20.0%	45.5%	20.0%	11.1%
鎮痛薬	最近1年使用なし	—	—	—	—	6.7%	23.5%	21.4%	0.0%	0.0%	30.0%
	友人	6.3%	0.0%	16.7%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	医師	50.0%	41.4%	50.0%	60.9%	46.7%	47.1%	21.4%	16.7%	45.5%	0.0%
	薬局	56.3%	79.3%	61.1%	65.2%	6.7%	5.9%	50.0%	83.3%	54.5%	70.0%
鎮咳薬	最近1年使用なし	—	—	—	—	12.0%	0.0%	9.1%	50.0%	15.0%	11.1%
	友人	21.1%	0.0%	12.5%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	22.2%
	知人	5.3%	7.7%	6.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	恋人・愛人	0.0%	15.4%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	家族	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	密売人	5.3%	0.0%	3.1%	14.3%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	医師	5.3%	15.4%	3.1%	14.3%	0.0%	33.3%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	薬局	78.9%	92.3%	81.3%	85.7%	4.0%	16.7%	81.8%	25.0%	80.0%	66.7%

(*1998, 2000, 2002 年度調査では「最近1年間の入手経路」)

表 22 性別にみた覚せい剤初回使用方法

使用方法	1993		1996		1998		2000		2002	
	男性	女性								
経口	7.9%	1.4%	2.1%	5.0%	2.7%	4.4%	3.2%	5.0%	3.3%	2.9%
静注	81.1%	76.8%	77.5%	79.0%	75.0%	72.3%	70.7%	66.9%	72.8%	73.7%
吸煙	10.4%	10.1%	7.6%	11.8%	13.6%	17.5%	13.7%	22.5%	14.2%	12.4%
経鼻	2.4%	0.0%	0.9%	0.0%	0.7%	0.7%	0.4%	1.3%	0.5%	0.7%

表 23 主たる状態像(覚せい剤症例)

	1994	1996	1998	2000	2002
急性中毒	—	27.3%	1.3%	3.6%	2.3%
依存症候群	45.2%	34.0%	14.3%	12.0%	13.3%
精神病性障害	81.8%	57.8%	40.0%	47.5%	44.9%
残遺症候群・残遺性障害	—	55.6%	37.4%	29.6%	34.9%

表 24 主たる状態像(有機溶剤症例)

	1994	1998	2000	2002
急性中毒	—	7.3%	9.7%	3.1%
依存症候群	71.4%	43.4%	34.6%	31.3%
精神病性障害	58.1%	22.0%	31.4%	29.4%
残遺症候群・残遺性障害	—	17.6%	12.4%	19.0%

表 25 主たる状態像(医薬品症例)

	1994	1998	2000	2002
(睡眠薬症例)				
急性中毒	—	12.3%*	13.0%*	5.2%
依存症候群	94.4%	73.7%*	72.0%*	67.2%
精神病性障害	25.9%	1.8%*	1.0%*	5.1%
残遺症候群・残遺性障害	—		1.0%*	3.4%
(抗不安薬症例)				
急性中毒	—			0.0%
依存症候群	94.7%	(注1)	(注1)	76.5%
精神病性障害	10.5%			0.0%
残遺症候群・残遺性障害	—			5.9%
(鎮痛薬症例)				
急性中毒	—	11.8%		4.2%
依存症候群	95.3%	76.5%	(注2)	54.2%
精神病性障害	27.9%	0.0%		0.0%
残遺症候群・残遺性障害	—	5.9%		4.2%
(鎮咳薬症例)				
急性中毒	—	5.0%		0.0%
依存症候群	—	60.0%	(注2)	58.6%
精神病性障害	—	25.0%		13.8%
残遺症候群・残遺性障害	—	5.0%		20.7%

(注1)1998年, 2000年:睡眠薬, 抗不安薬症例を合わせた割合*

(注2)「(F19.x)多剤およびその他の精神作用物質」として集計⁸⁾